



やちだも

札幌市立琴似中央小学校

学校ホームページ <https://www.kotonichuo-e.sapporo-c.ed.jp>

学校便り
最終号
令和7年3月25日



学びの庭に こころたのしく

きよらに伸びて ほほえむわれら われらわれら

校長 山田 健一

21日(金)には第72回卒業証書授与式を挙行し、62名の卒業生が卒業証書を手に学び舎を巣立っていきました。とても凛々しく、そして晴れやかで素敵な表情でした。

そして、本日修了式をむかえ、令和6年度の琴似中央小学校の教育課程を修了しました。

例年に比べると、インフルエンザ等で体調を崩すお子さんが少なく、ひとえに御家庭での健康管理が行き届いていたおかげであると推察します。ありがとうございました。

子どもたちは、よく学びよく遊び、心も体もたくましく育っています。1年ないし2年前のお子さんと比べてみてください。確実に成長しているはずです。ぜひ伸びたところをたくさん褒めていただきたいと思います。御家族からのプラス評価が、その後のお子さんの成長を一層高めることは、間違いありません。

さて、見出しにあるのは、琴似中央小学校校歌の2番の後半の歌詞です。私が一番好きなフレーズです。ついつい、だんだん声高に歌ってしまいます。担任教諭時代(5年間)を含め、延べ8年間、(大げさかもしれませんが)100回以上は歌う機会があったと思います。

学びの庭に：学校の教室、グラウンドや、昔のもえぎ広場、体育館などにいる子どもたちが

こころたのしく：様々な人・もの・ことに興味・関心を寄せ、心動かし、楽しく生活している

きよらに伸びて：けがれがなく、美しく、知・徳・体がきたえられ

ほほえむわれら：自分が成長したこと、仲間が成長したことを喜び合う。そこには間違いなく、見守って微笑んでいる教職員や保護者がいる (私見です)

では、なぜ、最後に「われら われら」と反復(繰り返し)しているのでしょうか。

作詞者、作曲者の思いを伺うことはできませんが、子どもと子どものつながり、子どもと教職員のつながり、さらに学校と地域(保護者)とのつながりの大切さを示しているのではないのでしょうか。この先、どんなにデジタルで便利な世界が広がっていても、校歌の詞のように顔と顔を合わせた子どもたちがリアルにつながり、そこに教職員、地域(保護者)が更につながり、「われら われら」の歌声が、どんどん高らかにひびき合う、そんな琴似中央小学校でありたいと思います。



これまで、本校の教育に対しまして、あたたかい御理解と御支援をいただきましたことに、厚く御礼申し上げます。